日本史新発見

～あの出来事の最新事情～

河合 敦氏
Atsushi Kawai

歴史作家・歴史研究家。多摩大学客員教授。早稲田大学非常勤講師。『世界一受けたい授業』（日本テレビ系）などテレビ出演多数。歴史の意外なエピソードの紹介や分かりやすい解説に定評がある。著書に『世界一受けたい日本史の授業』『日本史は逆から学べ』『逆転した日本史』など。

第２回

黒船に衝撃！ 若き龍馬と浜川砲台

坂本龍馬は、幼少のころは弱虫で泣き虫でしたが、10代半ばになると剣の腕が上達し、19歳で土佐藩の許可を得て江戸へ剣術修行にやって来ます。1853年のことでした。ペリーが4隻の黒船を率いて浦賀に来航し、幕府に強く開国を迫った年ですね。このときペリーは測量と称して蒸気船を江戸湾深く侵入させます。驚いた幕府は、諸藩に品川沿岸の防備を命じました。

土佐藩は、品川に下屋敷とこれに隣接する鮫洲抱屋敷を所有しており、江戸留学中の龍馬も藩から付近の警備を命じられました。このとき龍馬が父親に宛てた手紙に「近いうちに戦になると思います。そのときは異人の首を討ち取ってまいります」と記しており、戦争を覚悟しています。若き日の龍馬にとって、衝撃的な体験だったことが分かります。

翌年、故郷に戻った龍馬は、アポなしで河田小龍の屋敷を訪れます。河田は漂流した土佐の漁師・ジョン万次郎からアメリカでの生活を聞き取り、藩へ報告書を提出した知識人です。おそらく龍馬は巨大な黒船を目の当たりにして「どうしたら列強諸国から日本を守ることができるのか」と悩み、解決策を求めて河田の元へ押しかけたのでしょう。熱意に打たれた河田は「アメリカと同じ強大な海軍を持つことだ」と教えました。

以後、海軍をつくることが龍馬の夢となり、やがて脱藩して勝海舟（幕府の軍艦奉行並）に弟子入りし、軍艦の操船技術を学び、ついに亀山社中（後の海援隊）を創設したのです。品川で黒船と遭遇しなければ、龍馬は歴史上に名を残していなかったかもしれません。

現在、彼が警備していた立会川河口付近に20歳の龍馬像がありますが、そのすぐ近くには砲台（浜川砲台）が原寸大で復元されています。これは、ペリーの再来（1854年）に備えて土佐藩が鮫洲抱屋敷内に設置したのを記念したモニュメントで、「30ポンド6貫目ホーイッスル砲」は3メートルもある立派なものです。品川といえば、ペリー来航後、わずか数カ月間で海中に石垣づくりの砲台（品川台場）を構築したことで有名ですが、実はそれ以外にも、江戸湾周辺には多くの砲台がつくられており、浜川砲台もその1つなのです。

ちょこっと旅ガイド

【坂本龍馬像と浜川砲台跡】 東京都品川区東大井　京浜急行・立会川駅周辺

立会川駅近くの北浜川児童遊園に、この地で警備についたとされる20歳の坂本龍馬を再現したブロンズ像が立っています。そこから徒歩3分ほどの新浜川公園には、本文にも書かれているように浜川砲台の大砲の1つ「30ポンド6貫目ホーイッスル砲」が復元設置されています。